

バレイショ新品種「デジマ」について

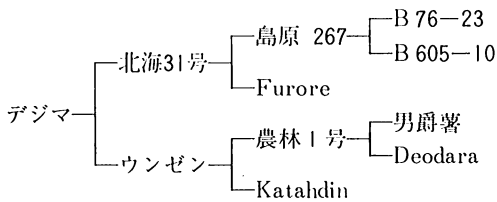
知識敬道・北野保樹・佐田 満・田淵尚一・宮本健太郎・室園正敏
(長崎県総合農林試験場)

CHISHIKI, T., KITANO, Y., SATA, M., TABUCHI, S., MIYAMOTO, K. and MUROZONO, M.
A New Variety of potato "Dejima"

1. 来 歴

昭和37年、北海道農業試験場作物第5研究室(現作物部畑作物第2研究室)で、下記血縁関係図に示したような交配を行ない、その種子を昭和39年春長崎県愛野馬鈴薯センターで実生育成し、その後選抜を続けてきた系統である。外観や食味がすぐれており有望と認めたので、昭和44年春長系74号とし、各地で特性の検討を行なってきた。その結果、各地でも食味外観ともに良く、とくに疫病抵抗性因子R₁をもっているため疫病に強く、その他の病害にも強いことがはっきりしたので、昭和45年春西海13号とし、昭和46年5月、バレイショ農林19号として登録、「デジマ」と命名されたものである。

第1表 血 縁 関 係



2. 特性の概要

イ. 形態的特性：草勢は中～強で、草型は分枝が少し多くて、やや開いた感じとなる。茎および複葉の大きさは農林1号程度で、複葉の着き具合はやや疎である。花色は白く、つぼみのうちに落ちやすいので、開花数は少ない。匍枝の長さは春秋とも農林1号より長く、数も多い。いもの形は、春は少し長めの球型だが、秋は球に近く、目も浅い。皮色、肉色ともに淡黄色で、外観は非常に良い。いも数は少し多目で、いもの大小整否がやや劣り、いもの平均1個重もタチバナより軽くなりやすい。

ロ. 生態的特性：休眠期間は春秋作とも短かく、最も短休眠のシマバラより少し長い。タチバナと同じくらいで、萌芽は春秋作とも揃いが良く、萌芽期もシマバラについて早い。熟性は農林1号と同じ

くらいで、中晩性に属する。いもつきの早さは農林1号より少し早く、タチバナより早い。春秋作ともに農林1号より多収である。タチバナに比べると、少肥条件では劣ることもあるが、多肥条件では同等あるいは多収を示す場合が多い。澱粉価は、農林1号と同じか、それより少し劣る程度で、ウンゼン、タチバナなどより常に高い。食味は非常に良く、常に農林1号以上の味を示し、暖地で特に食味が良いチヂワと同じか少し劣る程度である。耐病性がすぐれていることも、この品種の大きな特徴で、耐疫性主働因子R₁をもち、発生する疫病菌のレースの種類によっては、全然発病しない場合もある。また軟腐病に対してやや強、ネグサレセンチュウ病、粉状そうか病ともに強など、多くの病害に対して、かなりの抵抗性をもっていることも、この品種のすぐれた点である。

第2表 特性の概要

品 種 名	休眠日数 日		アール当り 収 量 kg		澱 粉 価 %		平均1個重 g	
	春作	秋作	春作	秋作	春作	秋作	春作	秋作
デジマ	66	118	273	210	14.6	14.8	84	96
農林1号	75	123	234	180	15.7	15.0	82	79
タチバナ	68	118	244	217	12.8	12.9	92	119

3. 栽培上の注意

やや多肥または肥沃地に適するので、やせ地では施肥量を多くする必要がある。また、休眠期間が短かいので、晩植すると基数がふえ小さいものになりやすいので注意を要する。疫病には強いが、流行する菌のレースの種類によっては、普通の品種とかわらないぐらいの罹病を示すこともあるので、発病状況を良く観察して、適確な防除をする必要がある。地上部がやや開くので、中耕培土などの管理作業は早目に行なう方が望ましい。

4. 適 応 地

広く西南暖地2期作地帯に好適するが、とくにやや肥沃地に向くと考えられる。